国際関連情報　国際会議等

米国財務会計基準審議会（FASB）との第12回定期協議の概要

研究員　吉岡 亨（よしおか とおる）

1. はじめに

2012年2月6日及び7日の2日間、企業会計基準委員会（ASBJ）は、米国財務会計基準審議会（FASB）との間で、第12回定期協議を米国ノーウォークで開催した。ASBJからは西川委員長、加藤副委員長、小賀坂主席研究員他スタッフが参加し、FASBからはLeslie F. Seidman議長、Thomas J. Linsmeier理事に加え、他の理事、ディレクター、担当スタッフも参加した。

2. 全体のスケジュール

日　時	議　題	主な内容
2月6日 午前	ASBJアップデート	• ASBJにおける最近の活動状況等
	FASBアップデート	• FASBにおける主要なプロジェクトの状況等
午後	収益認識	• 一定の期間にわたって充足される履行義務の取扱い等
	金融商品及び保険契約	• 金融資産の減損 • 金融商品の分類と測定、及び保険契約 • ヘッジ会計
2月7日 午前	リース	• 貸手の会計モデル • 借手の会計モデル
	投資企業	• 原則ベースのアプローチの必要性等

3. 議事概要

(1) ASBJ／FASBアップデート

ASBJ側から、次の項目を中心にASBJにおける最近の活動状況等について説明がなされ、意見交換が行われた。

- 国際財務報告基準（IFRS）を取り巻く最近の状況（企業会計審議会の検討状況など）
- 日本の関係者のIFRSに関する懸念と米国の

動向への関心
- 中小企業向け会計基準
- ASBJ と FASB との間の継続的なコミュニケーション

また、国際会計基準審議会（IASB）が現在取り組んでいる「アジェンダ・コンサルテーション 2011」（2011 年 7 月公表）に対して ASBJ が提出したコメントの主な内容が紹介され、意見交換が行われた。具体的には、全体的な項目として既存の IFRS の維持・管理、概念フレームワークの改善、開示フレームワークの確立等の重要性を挙げていること、また、重要な個別の項目として次の 6 つの項目を挙げていることが説明され、議論が行われた[1]。
- その他の包括利益（OCI）とリサイクリング
- 公正価値測定の適用範囲
- 開発費の資産計上
- のれんの非償却
- 固定資産の減損損失の戻入れ
- 機能通貨

FASB 側からは、主要なプロジェクトの検討状況や、非公開企業の会計に関する FASB の取組み状況、FASB の母体組織である財務会計財団（FAF）による適用後レビューの取組みなどの説明がなされた。また、米国証券取引委員会（SEC）が予定している IFRS に関する意思決定の動向についても意見交換が行われた。

⑵　収益認識

FASB は、IASB と共同で、2010 年 6 月に収益認識に関する公開草案を公表し、その後の検討を経て、2011 年 11 月には再公開草案「顧客との契約から生じる収益」を公表している。再公開草案では、収益認識のコアとなる原則やその達成手順を公開草案から引き継ぎつつ、一定期間にわたって充足される履行義務の判断要件など、一部の項目について追加・修正がなされている。

今回の会議では、この再公開草案の提案のうち次の論点について、ASBJ スタッフが整理した現時点での見解が示され、意見交換が行われた。
- 一定の期間にわたって充足される履行義務の取扱い
- 信用リスクによる減損がある場合の表示
- 不利な履行義務
- ライセンスと使用権
- 開示（期中財務報告における開示）

⑶　金融商品及び保険契約

FASB は、現在、金融資産・負債の分類と測定、金融資産の減損を中心に、金融商品に関する会計基準の包括的な見直し作業を行っている。今回の会議では、次の項目を取り上げ、それぞれの項目について ASBJ スタッフの暫定的な見解や分析が示され、意見交換が行われた。

①　金融資産の減損
②　金融商品の分類と測定、及び保険契約
③　ヘッジ会計

①　金融資産の減損

金融資産の減損について、FASB は IASB と共同で検討を進め、3 つのバケットに基づくアプローチを開発中である。現時点で ASBJ スタッフが整理した見解が説明され、その後に意見交換が行われた。主な論点は以下のとおり。
- バケット 1 からバケット 2 への移転時期についての一般原則
- バケット 2 とバケット 3 の区分の方法
- 信用の質が悪い状況で購入により取得した貸出金
- バケット 1 の測定

1　これらの詳細は、この会議の後、2011 年 11 月 30 日付けで ASBJ から IASB に提出したコメントレターを参照（https://www.asb.or.jp/asb/asb_j/international_issue/comments/20111130.pdf）。

- 提案されている減損モデルに関する実務的論点

② 金融商品の分類と測定、及び保険契約

金融商品の分類と測定について、FASBは再審議の過程で、企業が金融資産を管理する事業活動に基づき、金融資産に関して3つのカテゴリー（償却原価、OCIを通じた公正価値、純損益を通じた公正価値）に区分することを暫定的に決定している。また、IASBでは、事業モデルに基づき金融資産を2つのカテゴリー（償却原価と純損益を通じた公正価値）に区分するIFRS第9号について、2011年11月に、保険契約プロジェクトやFASBの分類モデルとの関係を考慮し、第3のカテゴリーを提供すべきかどうか再検討することが決定されている。今回の会議では、この事業活動（又は事業モデル）の要件に関して、保険契約プロジェクトにおける保険負債の測定（特に割引率の変動の表示）との関係から、ASBJスタッフの現時点での分析が示され、意見交換が行われた。

③ ヘッジ会計

ヘッジ会計の論点のうち、特にIASBにおいて現在検討中のマクロ・ヘッジに関するモデルを参考に、現段階でASBJスタッフが、マクロ・ヘッジの会計モデルの構築にあたって検討が必要と考えている次の論点について説明がなされ、意見交換が行われた。

- ネット・ポジションの一部をヘッジ対象とすることの適否
- 非有効性の最小化のために取り得る手段

⑷ リース

FASBは、IASBと共同でリースの会計基準を改善するための審議を継続している。貸手の会計処理については、2011年7月に債権・残存資産アプローチという新たなアプローチが採用され、借手の会計処理については、定額の損益認識パターンのニーズの再検討が2011年1月からワーキング・グループを開催して議論が行われている。今回の会議では、このリースの審議状況について、次の論点ごとにASBJスタッフの分析や見解が説明され、意見交換が行われた。

- 貸手の会計モデル（債権・残存資産アプローチ、投資不動産の除外、代替案について）
- 借手の会計モデル（定額の損益認識パターン、貸手との整合性、代替案について）

また、1月に開催されたリースのワーキング・グループにおいて示された借手の会計処理に関する各種の代替案への予備的なコメントも提示され、意見交換が行われた。

⑸ 投資会社

2011年10月に、FASBは、投資会社に関する公開草案「金融サービス―投資会社（Topic 946）：範囲、測定及び開示規定の修正」を公表し、投資会社に関する既存の適格要件の修正を提案している。IASBとの共同プロジェクトとして行われており、IASBも、ほぼ同様の適格要件を公開草案の中で提案しており、2012年1月に当該公開草案の提案に対してASBJからコメントも提出している。今回の会議では、特に重要な次の項目に絞って、ASBJ側の見解が提示され、意見交換が行われた。

- 原則ベースのアプローチの必要性（公正価値測定が有用となる場合を識別する原則の必要性、投資の特徴に基づく原則、具体的な構成要素）
- 基本的な要件と濫用防止のための要件の再検討について（資金のプール要件など）

4. 次回の予定

次回は、2012年9月に東京で開催する予定である。